

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：32707

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02254

研究課題名(和文) 石垣島台湾系住民の音楽行動 台湾・石垣島社会との関係を中心にー

研究課題名(英文) Musical behavior of people with Taiwanese roots in Ishigaki Island -Focusing on the relationship between Taiwan and Ishigaki Island society-

研究代表者

岡部 芳広 (OKABE, Yoshihiro)

相模女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：50582152

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：琉球華僑総会八重山分会と八重山台湾親善交流協会の活動に焦点を当て、検討をした。琉球華僑総会八重山分会では、担い手が不足しており、芸能の伝承が難しくなっていることが明らかになった。また、八重山台湾親善交流協会は、台湾人入植者に対する感謝の念が基調理念としてあり、その感謝の念は個人的な感謝だけではなく、「社会としての感謝」であり、石垣島社会の中で伝えていく役割を担っていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

移民に対する「感謝」を基盤として、八重山と台湾の交流がなされているという、国際交流の珍しい形態であると指摘した。また、石垣島社会の発展を歴史的に見たとき、その根底に台湾人入植者による農業開発があり、それを個人的な感謝ではなく「社会としての感謝」として、八重山台湾親善交流協会が石垣島社会で伝えていく機能を担っているということを指摘した。

研究成果の概要(英文)：We focused on the activities of the Yaeyama Branch of the Ryukyu Overseas Chinese Association and the Yaeyama-Taiwan Friendship Association. At the Yaeyama branch of the Ryukyu Overseas Chinese Association, it became clear that the lack of bearers made it difficult to pass on the performing arts. In addition, the Yaeyama-Taiwan Friendship Exchange Association has a basic gratitude for Taiwanese settlers, and the gratitude is not only personal gratitude but also "gratitude as a society". We found that they have a role to convey that in Ishigaki society.

研究分野：音楽学

キーワード：石垣島 台湾 芸能

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

これまで、琉球華僑総会八重山分会の活動については、婦人部の踊りを中心とした考察を行ったが(拙著「石垣島における台湾系住民の音楽行動 -2012年10月10日、双十節を中心に-」相模女子大学紀要(人文系)77A、2014年3月)、八重山台湾親善交流協会の活動についての論考は管見の限りほとんど見当たらない。この両団体の活動を考察することにより、石垣島の台湾系住民と台湾社会との関わりを検討することができると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は、沖縄県八重山諸島の石垣島の台湾系住民が、台湾から移民として石垣島に移住してから今日までの歴史的な文脈のなかで、どのような音楽行動をとり、またどのように台湾と音楽・芸能方面での交流をもち、それが石垣島社会においてどのような意味を持つのかを明らかにすることを目的とするものであった。

### 3. 研究の方法

主に、聞き取りを中心に調査を行った。聞き取り調査の対象は、琉球華僑総会八重山分会の関係者、及び、八重山台湾親善交流協会の関係者である。

### 4. 研究成果

台湾系の住民が、自らのアイデンティティに基づいて形成しているコミュニティは、琉球華僑総会八重山分会である。ここでの活動に見られる音楽行動に着目して調査を行ってきた。また、八重山と台湾との交流を目的とした、八重山台湾親善交流協会も、石垣島と台湾との関係を見るに当たって重要な団体である。この2つの団体の活動を中心に考察を行った。

(個人名が数多く出てくるため、全ての方に掲載の承諾をいただくことが難しいことから、歴史的な人物等の名前以外は、イニシャルを使用するなど、本名を使用しないこととした)

#### 【1】琉球華僑総会八重山分会の活動を通して

琉球華僑総会八重山分会(以下、八重山分会)の設立過程については、前述の拙著に述べたので、ここでは繰り返さないが、2011年より継続的に調査・研究してきた中で明らかになったのは、次世代を担う、若い世代が思うように活動に参加できない実態であった。子育てや仕事で、分会の活動に時間や労力を割くことが難しく、嘆く声当事者からも、他の世代からも聞かれた。こういった状況により、単発の行事に参加することは可能であっても、継続的に練習などを必要とする活動が難しくなっている。これまで、八重山分会は断続的ではあるが、11月に行われる「石垣島まつり」に「龍踊り」で参加をしてきた。しかし、ここ数年は若い世代が集まって練習することが困難なため、参加を見合わせている。また、こういった状況は、「台湾人意識」の希薄化とも無関係ではないと思われる。中・後年世代の会員からは、若い世代が「自分は台湾人である」や「自分は台湾をルーツとして持つ」ということを、あまり意識しなくなっている、と言う声も聞かれた。現在、分会の活動の中核を担っているのは、中・高年世代であるが、彼らの多くは移民2世であったり、もしくは幼少期に台湾から移住してきた当事者である。彼らは親から台湾の様子を直接聞いたり、移住当初の苦労した話を聞いたりして育っており、台湾人意識を高く持つ人が多いと見受けられた。しかし、現在の若い世代は、3世・4世が中心であり、その意識は大きく変わりつつある。活動の中心的人物は、八重山分会の宗教的行事や文化的行事を行うことにより、「若い世代の、台湾人意識を高めたい」と語っていたが、これからの活動の興隆に期待したいところである。また、かつて踊っていた踊り手は、「踊りを続けたいが、皆忙しくて、なかなか集まることができない」という感想を漏らしていた。これが、本当に忙しくて集まらないのか、それとも、それだけではなく意識の変化が関連しているのか、今後の課題としたい。こういった、アイデンティティに関わる意識の変化に関しては、ハワイにおける日系3世以降や、日本における在日コリアン、他府県に移住した沖縄出身者などにも同様の問題が見られる。広い射程をもって比較研究をすることで、この問題が深化し、本研究の意義がさらに高まるのではないかと期待も得られた。

宗教的行事の最も重要なものとして「土地公祭」がある。これは、その時の守り神である「土地公」に祈りを捧げる祭りで、旧暦の8月15日(前後)に行われる。特徴的なことは「豚」をまるごと2頭供えることで、八重山分会の中には「豚祭り」と呼ぶ人もいる。石垣島で神聖な場所とされている名蔵御嶽で行われ、菓子や食べ物が多く並べられるが、それだけではなく、傍らにステージが設営され、芸能の奉納が必ず行われる。以前は、八重山分会婦人部による踊りが奉納されていたが、踊り手の不足により、ここ数年行われていないのは残念である。八重山舞踊や八重山の歌、ポップスや歌謡曲なども奉納され、祭りの中で、歌や踊りが担うウェイトは大きい。

本研究を通して、活動の中核を担う会員各位に多大な協力をいただいた。この場を借りてお礼を申し上げます。その皆さんからは、台湾人意識を高め、文化を継承していきたいという強い思いを感じた一方、会の活動が変化の時期を迎えていることも感じられた。新しい世代が、どのような道を切り開いていくのか、今後も注目していきたい。

#### 【2】八重山台湾親善交流協会の活動を通して

「八重山台湾親善交流協会結成趣意書」には、以下のようにある。「1935(昭和10年)台湾(員

林地方を中心として)から当地八重山に入植された方々によって、パインが生産され、戦後の八重山の、農業、経済発展に大きく寄与、貢献されました。その以前、1933(昭和8)年には台湾水牛を導入し、荒地を開墾し、八重山の農業に革新的な技術向上をもたらせました。そのような歴史的事実を踏まえながら、去る2012(平成23)年8月に、地元八重山及び多くの有志によって、水牛、パインを導入した台湾農業入植者に感謝し、その功績を称え、入植の地「名蔵」に「台湾農業入植顕彰碑」を建立いたしました。そこで、石垣市文化協会、琉球華僑総会八重山分会を発起人として「八重山台湾親善交流協会」を結成いたしました。」

この結成趣意書にあるように、八重山台湾親善交流協会(以下、交流協会)が設立された伏線として、石垣島地元住民の、台湾人農業者入植の功績に対する感謝の念がある。これは、パイン(パイナップル)産業や水牛の導入により、八重山の農業の発展に多大な貢献があったとするもので、2012年8月10日に、名蔵ダムに「台湾農業者入植顕彰碑」が建立されている。それをきっかけに、「物」(顕彰碑)だけでなく、「心の交流」即ち、文化・経済の交流で、八重山と台湾の関係を深めていこうと「石垣市文化協会」と「琉球華僑総会八重山分会」が発起人となり、2013年4月5日に「八重山台湾親善交流協会」が設立された。

では、交流協会のこれまでの活動を整理して俯瞰していきたい。(主催行事だけでなく、協力・参加した行事も含む)

協会設立記念シンポジウム「台湾交流・過去と未来を考える」2013年6月15日 大川公民館  
設立最初の記念事業として、「台湾交流・過去と未来を考える」をテーマにシンポジウムが催された。交流協会顧問(ジャーナリスト)、分会会長、分会青年部長、分会員、交流協会顧問(八重山経済人会議代表幹事)、八重山毎日新聞記者の6名がパネリストを務めた。シンポジウムでは、台湾人入植者が八重山にもたらしたパイン産業や水牛を使った農業について、戦時中の台湾疎開について、新石垣空港を活かした台湾との観光のあり方などについて等が話題とされ、活況を呈したという。

台湾入植者ゆかりの地巡り-台湾と八重山の交流の歴史を学ぶ- 2013年6月30日  
のシンポジウムで話題となった台湾入植者のゆかりの地を訪ね、台湾と八重山の交流の歴史に理解を深めることを目的に行われた。八重山分会や交流協会の役職者が説明役となり、東バスターミナル～台湾共同墓地～名蔵御嶽(八重山分会が「土地公祭」を行う場)～台湾入植者顕彰碑(名蔵ダム)～大同拓殖パイン工場跡～島本マンゴ園、のコースを貸し切りバスで視察した。参加者は市民40名。

平成25年度文化交流事業 「八重山の歌と踊り 台湾・員林鎮公演」 2013年7月20日  
台湾の彰化県員林演芸庁において、八重山の歌と踊りを披露する会をもった。これは、「パインや水牛が八重山に定着するきっかけをつくった台湾の人たちに八重山の歌や踊りを披露し、感謝の気持ちを表す」という趣旨で行われた(員林は、八重山への入植や、パイン工場への出稼ぎ労働者を多く出した土地のひとつ)。公演には、交流協会那覇支部の会員、八重山民俗舞踊保存会、石垣混声合唱団の団員ら93名が参加し、現地では、約100名の台湾の人たちが舞台を鑑賞した。

(沖縄支部)「台湾体験を語る会」2014年1月18日 沖縄県立博物館  
交流協会那覇支部設立後最初の事業として行われた。基調報告を、台湾取材経験豊富な八重山毎日新聞記者のM氏が言い、終戦の年まで台湾で暮らした経験を持つ3名の方々がそれぞれの体験を語った。また、女性史研究家のU氏が、植民地期台湾における八重山出身者の女中奉公の実態について、研究成果を発表した。

書籍『八重山パイン物語』の出版 2014年4月15日  
交流協会顧問執筆により、八重山へのパイン産業の導入に貢献した台湾人の苦難の歴史と地元住民との交流を描いた書籍が、交流協会発行として出版された。

映画上映会「空を拓く ～建築家 郭茂林という男」2014年5月24日 琉球新報ホール  
那覇の琉球新報ホールで行われた映画(日本と台湾をテーマにした映画を多く手がける、酒井充子監督の作品)の上映会に、交流協会の会員が多く参加した。郭茂林は、1921年植民地台湾に生まれ、台北州立台北工業学校で建築を学び、東京帝国大学に就職。戦後は日本国籍を取得し、霞が関ビルを始めとする、日本の名だたる高層ビルや、台湾の高層ビル建築に関わった建築家。

平成26年度文化交流事業 「侯慧鈴舞団 石垣島公演」2014年9月14日 石垣市民会館  
石垣市民会館大ホールにて、台湾の彰化県員林鎮侯慧鈴舞団の公演を行い交流をした。特筆すべきは、地元の3つの高等学校(県立八重山高等学校、県立八重山農林高等学校、県立八重山商工高等学校)の郷土芸能部が友情出演し、交流の幅を広げたことであろう。

平成26年度文化交流事業 台湾台東民俗芸能沖縄公演「躍動の交流」-台湾と沖縄の高校生

芸能で国際交流- 2014年8月23日 浦添市てだこホール

沖縄支部の文化交流事業として、台湾の国立台東高級商業職業学校民俗芸能部（40名）を招き、県立南風原高等学校郷土芸能部が友情出演して開催された。八重山と台湾の高校生同士の文化交流は非常に貴重なもので、観客は1000人にのぼった。この事業は沖縄県文化振興会からの助成を受けている。

映画「はるかなるオンライン山〜八重山・沖縄パイン渡来記〜」完成披露無料上映会 2015年7月16日 石垣市民会館

交流協会顧問のM氏が原案で、交流協会・沖縄支部・八重山分会・石垣市文化協会が協力して完成したドキュメンタリー映画である。台湾からの入植者によってもたらされたパイン産業を軸に、入植者と地元の人との軋轢や融和、そして入植者たちが夢を実現していく様子が描かれている。

「土地公祭」参加 2015年9月27日 石垣島青果

八重山分会主催の土地公祭が、石垣島青果倉庫で行われ、会長始め役員が参加した。

副会長・事務局長・監事の台湾訪問 2015年10月7～11日

(1)中琉文化経済協会新理事長の表敬訪問 (2)国立台北教育大学の訪問 (3)国立台東高級商業職業学校の訪問(次年度石垣公演の打合せ) (4)台湾琉球協会会員との交流 (5)中華民国第104回双十節への出席 の5つの目的で、役員3名が台湾を訪問した。

「台湾 琉球石垣島 私たちの展示会」2015年10月18・20日 石垣市立図書館

八重山の高校生の留学生を受け入れている、国立台北教育大学の学生による造形作品展。35名の学生と関係者が10月17日から21日の日程で来島した。

国立台北教育大学 留学についての意見交換会 2015年10月19日

石垣市と国立台北教育大学とは、2009年度から留学生の派遣について提携しており、その推進は、交流協会の事業の柱でもある。地元三高校関係者と国立台北教育大学とが、留学についての情報交換会を催した。

石垣-花蓮 高速フェリー「ナッチャン・レナ」関係者との交流 2016年5月14日

石垣-花蓮間を最短4時間で結ぶ高速フェリー「ナッチャン・レナ」が石垣港に入港、台湾の観光・経済関係者の視察団を迎え入れ、交流の宴席を持った。

「躍動の交流〜台湾原住民歌舞〜」 2016年5月26日 石垣市民会館

国立台東高級商業職業学校民俗芸能部を招待し、芸能公演を開催した(同校前校長が幼少期を石垣島で過ごしたことが縁で実現)。地元からは県立八重山農林高等学校の郷土芸能部が出演し、交流を深めた。

「八重山台湾親善交流協会 活動の歩み展」 2016年5月26日 石垣市民会館

上記芸能公演に合わせて、結成以来の活動の歩みを、市民会館大ホールピロティにて展示を行った。

(沖縄支部)「歴史を訪ねる台湾の旅」・屏東県で八重山芸能公演 2016年5月26日

6月25日から4泊5日の日程で台湾を訪れ、26日には屏東県で八重山芸能の公演を行い、27日には台南県の烏山頭ダムを見学した。屏東県で公演を行ったのは、牡丹社事件の被害者を祀る「琉球藩民五十四名の墓」があるから。(44名の頭部遺骨は那覇に、首から下の遺骨は臺灣屏東県の「琉球藩民五十四名の墓」に納められている。)

(沖縄支部)波之上護国寺「臺灣遭害者の墓」に芸能奉納 2016年7月26日

波之上護国寺には、1871年の牡丹社事件の被害者54名のうち、44名分の頭部遺骨が納められている。その「臺灣遭害者の墓」に、八重山舞踊を奉納した。

李登輝元総統との懇談会 2016年8月1日

全国市長会の招聘で石垣島を訪問中の李登輝元中華民国総統と、八重山分会との懇談会が持たれ、交流協会役員も参加した。

台湾台風被害への義捐金街頭募金 2016年8月3日

7月8日、台湾台東市を直撃した台風1号により、前述の芸能公演を行った国立台東高級商業職業学校が甚大な被害を受けたことから、交流協会・同沖縄支部・八重山分会の3団体で街頭募金活動を行い、総額18万円を台北駐日経済文化代表処那覇分処を通して学校に届けた。

②「土地公祭」参加 2016年9月11日 名蔵御嶽

八重山分会主催の土地公祭が、名蔵御嶽で行われ、会長始め役員が参加した。

②「土地公祭」参加 2017年10月8日 石垣島青果

八重山分会主催の土地公祭が、石垣島青果で行われ、会長始め役員が参加した。

③国立台東高級商業職業学訪問 2017年12月13～17日

会長と幹事が、2015年の「台湾原住民の歌舞公演」に対するお礼として、国立台東高級商業職業学校を訪問した。併せて、沖縄県台北事務所も訪問した。

④「台湾フェア」での展示 2018年3月24日～4月1日 アートホテル石垣島

アートホテル石垣島の開業1周年を記念して開催された「台湾フェア」の中で、交流協会は、八重山と台湾との交流についてのパネル展示をホテル1階特設ロビーで行った。最終日の4月1日には「八重山台湾親善交流パーティー」が開催され、台北駐日経済文化代表処那覇分処代表も出席した。

⑤映画「はるかなるオンライ山」上映会 2018年8月1日 名蔵公民館

2015年7月以来4年ぶりの八重山での上映会を、名蔵公民館で行った。ちなみに、8月1日は「パインの日」ということで、この日に行われた。

⑥「土地公祭」参加 2018年9月23日 名蔵御嶽

八重山分会主催の土地公祭が、名蔵御嶽で行われ、会長・沖縄支部長始め役員・会員が参加した。

⑦「中華民国107年双十国慶節祝賀団」訪台 2018年10月8～11日

23名が3泊4日の旅程で、双十節への参加を中心として台湾を訪問した。台北駐日経済文化代表処那覇分処長のはからいで、中華民国外交部より双十節の諸行事への招待を受けての公式訪問であった。留学生を送り出している、国立台北教育大学へも訪問し、学長と懇談をした。

⑧「土地公祭」参加 2019年9月15日 名蔵御嶽

八重山分会主催の土地公祭が、名蔵御嶽で行われ、会長始め役員・会員が参加した。

研究対象としてきた交流協会結成以来の主な行事は以上である。元役員からのインタビューで、八重山と台湾交流のゆかりの地を巡る。留学生を台湾に送る。文化交流行事を積極的に行う。という3点が、交流協会の活動の柱であるということであった。これまでの行事を概観すると、その中でも文化交流行事が積極的に行われており、八重山の歌や踊りで、台湾との交流を深めていこうという意図が感じられる。

行事の全体像から、活動の特徴として次の2点を挙げておきたい。

1点目は、石垣島への台湾人入植者やその子孫に対する、感謝の念が非常に強いということである。「グローバル化の視点から」や「近隣諸国との友誼」、また「経済的恩恵」など、国際交流の大義はいろいろあると思われるが、この交流協会の基調にある理念は、「台湾人や台湾に対する感謝」であり、それは役員へのインタビューを通して強く感じられることであったし、また、行われてきた行事を見ても、その念が強く打ち出されていると言える。インタビューに答えてくださった元役員の方は、「パイン産業のお陰で、自分は高校に進学ができた。大変感謝している。」と語った。こういった経験をされた方は多く、そういった方々がパイン産業のお陰で学業を修め、その成果を石垣島社会に還元しているということを考えると、パイン産業から受けた恩恵は、個人が受けただけでなく、石垣島の社会が受けてきたと考えることができ、「社会としてそれに報いる仕組みを作ろう」とする強い思いが、調査のあらゆる場面で感じられた。

2点目は、若い世代（具体的には高校生）への働きかけが積極的だという点である。石垣市と協定を結んでいる国立台北教育大学への留学生送り出しに関する事業や、高校生を文化交流の場面に積極的に起用するなど、八重山と台湾との交流を、次の世代に引き継いでいこうという思いが、活動の中に具体的に強く表れている。

本研究を通して、活動の中核を担う会員各位に多大な協力をいただいた。この場を借りてお礼を申し上げます。前述したように、八重山分会の活動の中では、若い世代の台湾人意識の薄まりが懸念されているが、交流協会による台湾人や台湾への感謝の念は、薄れることなく次の世代に受け継がれて行くであろうと感じる。そして、それは協会の中だけで受け継がれていくのではなく、交流協会の存在や活動によって、その感謝の念は個人的な感謝ではなく、「社会としての感謝」であるということが明確化され、石垣島の社会の中で伝えられていくのだと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩井 正浩  (Iwai Masahiro)  (80036392)	神戸大学・人間発達環境学研究所・名誉教授    (14501)	